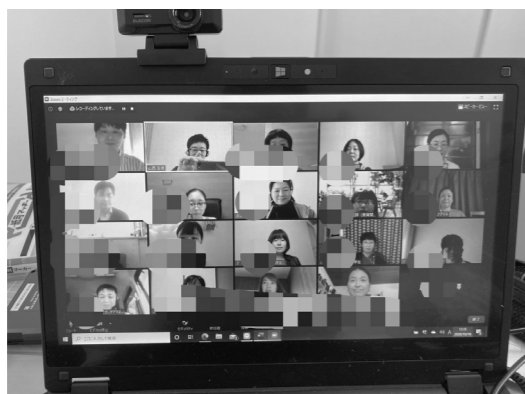


# これからの地域の専門職を地域で育てるワークショップ ～在宅医療・介護に従事する新卒専門職と在宅医療・ 介護に関心のある卒前の学生を対象に～

山西 友規 ●訪問看護ステーション相扶 訪問看護師



## 要旨

これからの地域医療・介護専門職の育成は重要である。地域医療・介護専門職の新卒者とその職種に関心のある学生を対象に、新卒者は継続して従事するためのモチベーションを高め、学生は就職の意欲を高め、さらに専門職同士だけでなく、地域でまちづくりを実践する異業職と交流を図ることを目的に、オンライン形式でワークショップを行った。

内容は、対人援助職に共通したコミュニケーションに焦点を当て、グループディスカッションなどの参加型の学習スタイルを用いた。参加者は多職種であり、各役割や立場の相違と共通点を見出し、交流を深めたことであらためて自己を見直す機会となった。ワークショップを通して、参加者が視点を高く持ち、地域を捉えてゆく力を養うきっかけとなり有用であった。今後も地域医療・介護専門職の育成と地域づくりの活性化に専心したい。

## 1. 背景と目的

広島県北は高齢化と過疎化が深刻で、2045年に向け、在宅医療・介護の充実と地域包括ケアが叫ばれて久しい。それゆえ、もはや各施設内だけ、または専門職だけの育成ではなく、まちづくりと一体化したそれらの専門職の人材確保及び人材の質的向上は喫緊の課題である。そこで、新卒者や学生の支援や交流にとどまらず、まちづくりを実践している異業種、すなわち同じく次世代を担う地域住民同士としての対話が必要であると考え、以下の目的でワークショップを開催した。

- ①在宅医療・介護に従事する新卒専門職が、継続して従事するためのモチベーションを高める。
- ②在宅医療・介護に関心のある学生が、卒前に在宅の現場について知り、就職の意欲を高める。
- ③専門職同士だけでなく、地域でまちづくりを実践する異業職と交流を図る。

## 2. 活動の方法

対象は、在宅医療・介護に従事する新卒専門職(ファーストキャリアから3年以内)とその職種に関心のある学生とした。一泊二日の宿泊で、ワークショップという参加型の学習スタイルを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、計画した内容を分割し、オンライン形式とした。日程を8月～11月の月1回ずつに変更し、各回2時間半の全4回実施した。

内容は、1回目に地域医療・介護の最前線

やバリアになっているかを対談したのをもとにディスカッションした。2回目には、前回参加者の語りをもとにインタビューワークを行い、対人援助職には欠かせないコミュニケーションスキルをテーマとした。3回目は、地域医療・介護の専門職ではない異業者2名にインタビューするワークを行い、4回目には、再び地域医療・介護の現場で活躍している人をゲストスピーカーに迎え、これまでに高めた問いの立て方や受け答えについて意識しながら、お互いのディスカッションを深めた。いずれの回も、必ず参加者の全員が発言するようにし、積極的に参加した。

## 3. 現状の成果・考察

本ワークショップの参加者20名の内、対象となったのは11名(内新卒者7名、学生4名)で、他9名はオブザーバーとして本ワークショップに関心を寄せた地域医療・介護専門職であった。職種は訪問看護師、保健師、薬剤師、介護福祉士、管理栄養士であり、学生は看護系大学、看護専門学校、介護系大学の学生であった。

地域医療・介護という対人援助職に共通したコミュニケーションスキルトレーニングに焦点を当てたことで、ワークを通して、それぞれの職種や立場の違いからの気づきが生じた。こまめに行った小グループでのグループディスカッションも気づきを促す一因だった。急遽オンライン形式となったことで参加者の数や特性に制限があったことは否めないが、オンラインであったからこそ、各参加者が個々で振り返りを深める作業には有用であった。

その手ごたえとして、終了後アンケートでの感想は長文であることが多く、今後もこのような多職種での学習や交流の場を設けてほしいという要望が寄せられた。地域で関わる専門職と言っても、立場や役割によって見え方や感じ方が異なり、その違いから自分を客

観視することにつながった。ワークを通してそれを参加者が体感することで、地域を捉える視点を高く持つきっかけとなったと考える。

一方で学生の参加者からの反応は乏しく、新卒者やオブザーバーの意見や経験談に圧倒され、肯定的に捉えることは難しかったのではないかと推察する。対象を別々で考える、あるいはワークの内容を検討する必要がある。

## 4. 今後の展望

本ワークショップを通して、地域に関わる多職種での学びや交流が重要かつ必要であることを実感した。今後も定期的に多職種との情報交換の場、スキルアップの場、各職種の“人となり”を知る場を提供できる機会を作っていきたい。それが地域医療・介護専門職の人材確保、人材の質の向上と育成、活性化した地域づくりにつながると考える。



ワークショップのフライヤー



ワークショップのフライヤー